



インフラストラクチャ デバイスの管理

- [インフラストラクチャの管理の概要 \(1 ページ\)](#)
- [インフラストラクチャの管理の前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [インフラストラクチャの管理のタスク フロー \(2 ページ\)](#)

インフラストラクチャの管理の概要

この章では、ロケーション対応機能の一部として、スイッチとワイヤレスアクセスポイントなどのネットワーク インフラストラクチャ デバイスを管理するタスクについて説明します。ロケーション対応を有効にすると、Cisco Unified Communications Manager データベースには、各スイッチまたはアクセスポイントに現在関連付けられているエンドポイントのリストを含め、ネットワークのスイッチとアクセスポイントのステータス情報が保存されます。

エンドポイントからインフラストラクチャ デバイスへのマッピングは、Cisco Unified Communications Manager と Cisco Emergency Responder が発信者の物理的な場所を特定するのに役立ちます。たとえば、モバイルクライアントがローミング中に緊急通報を行っている場合、Cisco Emergency Responder はこのマッピングを使用して緊急サービスを送る場所を判断します。

データベースに保存されるインフラストラクチャ情報も、インフラストラクチャの使用状況をモニタするのに役立ちます。Unified Communications Manager インターフェイスから、スイッチやワイヤレス アクセスポイントなどのネットワーク インフラストラクチャのデバイスを確認できます。現時点で特定のアクセスポイントまたはスイッチに関連付けられているエンドポイントのリストを表示することもできます。インフラストラクチャ デバイスが使用されていない場合は、インフラストラクチャ デバイスを非アクティブ化して追跡されないようにできます。

インフラストラクチャの管理の前提条件

Cisco Unified Communications Manager インターフェイス内でワイヤレス インフラストラクチャを管理するには、その前に、ロケーション認識機能を設定する必要があります。有線インフラストラクチャの場合、この機能はデフォルトで有効になっています。設定の詳細については、以下の章を参照してください。

『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』の「Location Awareness」。

また、ネットワークインフラストラクチャをインストールする必要もあります。詳細については、ワイヤレス LAN コントローラ、アクセス ポイント、スイッチなどのインフラストラクチャ デバイスに付属しているハードウェア ドキュメントを参照してください。

インフラストラクチャの管理のタスク フロー

次のタスクを実行して、ネットワーク インフラストラクチャ デバイスを監視および管理します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	インフラストラクチャ デバイスのステータスの表示 (2 ページ)	ワイヤレス アクセス ポイントまたはイーサネット スwitchの現在のステータスを、関連付けられているエンドポイントの一覧とともに取得します。
ステップ 2	インフラストラクチャ デバイス トラッキングの非アクティブ化 (3 ページ)	使用されていないスイッチまたはアクセス ポイントがある場合は、そのデバイスに非アクティブのマークを付けます。そのインフラストラクチャ デバイスのステータスまたは関連付けられているエンドポイントの一覧が更新されなくなります。
ステップ 3	非アクティブ化されたインフラストラクチャ デバイス トラッキングのアクティブ化 (3 ページ)	非アクティブなインフラストラクチャ デバイスのトラッキングを開始します。Cisco Unified Communications Manager が、インフラストラクチャ デバイスのステータスおよび関連付けられているエンドポイントの一覧により、データベースの更新を開始します。

インフラストラクチャ デバイスのステータスの表示

この手順を使用して、ワイヤレス アクセス ポイントやイーサネット スwitchなどのインフラストラクチャ デバイスの現在のステータスを取得します。Cisco Unified Communications Manager インターフェイス内で、アクセス ポイントまたはス switchのステータスおよび現在関連付けられているエンドポイントの一覧を表示できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[詳細機能 (Advanced Features)] > [デバイスの位置のトラッキング サービス (Device Location Tracking Services)] > [スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 3 ステータスを表示するスイッチまたはアクセス ポイントをクリックします。
[スイッチおよびアクセス ポイントの設定 (Switches and Access Point Configuration)] ウィンドウに、そのアクセスポイントまたはスイッチに現在関連付けられているエンドポイントの一覧を含み、現在のステータスが表示されます。

インフラストラクチャ デバイス トラッキングの非アクティブ化

スイッチやアクセス ポイントなどの特定のインフラストラクチャ デバイスのトラッキングを削除するには、次の手順を使用します。使用されていないスイッチまたはアクセス ポイントで、この手順を実行できます。



- (注) インフラストラクチャ デバイスのトラッキングを削除すると、デバイスはデータベースに残ったまま、非アクティブになります。Cisco Unified Communications Manager は、その後、そのインフラストラクチャ デバイスに関連するエンドポイントの一覧も含めて、そのデバイスのステータスを更新しません。[スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)] ウィンドウの [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンで、非アクティブなスイッチとアクセスポイントを表示できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、[詳細機能 (Advanced Features)] > [デバイスの位置のトラッキング サービス (Device Location Tracking Services)] > [スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)] を選択します。
- ステップ 2 [検索 (Find)] をクリックして、追跡を停止するスイッチまたはアクセスポイントを選択します。
- ステップ 3 [選択項目の非アクティブ化 (Deactivate Selected)] をクリックします。

非アクティブ化されたインフラストラクチャ デバイス トラッキングのアクティブ化

この手順を使用して、非アクティブ化されたインフラストラクチャ デバイスのトラッキングを開始します。スイッチまたはアクセス ポイントがアクティブになると、Cisco Unified

Communications Manager では、スイッチまたはアクセスポイントに関連付けられているエンドポイントの一覧を含むステータスを動的にトラッキングし始めます。

始める前に

Location Awareness を設定する必要があります。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』の「Location Awareness」の章を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified CM の管理で、**詳細機能 (Advanced Features)**] > **デバイスの位置のトラッキング サービス (Device Location Tracking Services)**] > **スイッチとアクセス ポイント (Switches and Access Points)**] を選択します。
 - ステップ 2 **関連リンク (Related Links)**] から、**非アクティブなスイッチおよびアクセスポイント (Inactive Switches and Access Points)**] を選択し、**移動 (Go)**] をクリックします。
[非アクティブなスイッチおよびアクセスポイントの検索および表示 (Find and List Inactive Switches and Access Points)] ウィンドウに、トラッキングされていないインフラストラクチャ デバイスが表示されます。
 - ステップ 3 トラッキングを開始するスイッチまたはアクセスポイントを選択します。
 - ステップ 4 **選択項目の再アクティブ化 (Reactivate Selected)**] をクリックします。
-